常盤台一・二丁目町会マンスリー

2026 年 12 月号 No.84

(HP) https://tokiwadai12.com (町会名で検索可)

Facebook: 常盤台一二丁目町会　TEL/FAX: 03-3969-8121

特殊詐欺注意！区内被害約 17 億円(年内)
詐欺メールへ4つのチェックポイント

いたばしプロレス常盤台一二丁目町会大会が、11.21(土)午後、常盤台小学校体育館で開催されました。冒頭で、板橋警察から、特殊詐欺への注意喚起がありました。本年 11 月 14 日現在で、板橋区内の特殊詐欺に被害は、約 16 億 8,247 万円に及ぶとのこと。

　被害にあわないために4つのチェックポイントが説明されました。

①メールアドレスをチェック： 送られてきたアドレスは本当に公式サイトに載っているメルアドなのか？@以降の文字列はおかしくないか？

②送られてきた文章をチェック： 変な文章だったり、日本語に違和感はないか？

③安易に URL を開かない： URL を開いた途端ウイルスに感染するかもしれません。

④パスワード等を安易に入力しない： 実際にメールが送られてきたら、その会社の公式サイトからアクセスを確認すること。

　加えて、**パスワードの使い回しは避ける、パスキー(顔認証や指紋認証で本人確認を行うものをなるべく使うことが望ましい**とのことです。



板橋警察



斉藤校長の挨拶



まるこレスラーに慕い寄る子供たち

コラム：鉄道立体化と駅舎(2) 国立駅

立体化に伴うまちのシンボルたる駅舎の扱いについては、JR 中央線国立駅が参考になります。

「赤い三角屋根」で親しまれた JR 国立駅の旧駅舎は、東京商科大学(現・一橋大学)を擁する学園都市のシンボルとして、堤康次郎の箱根土地会社が建設し鉄道省に寄付した請願駅として1926(大正 15)年に開業します。しかし、1993 年鉄道立体化に伴い駅舎解体が発表されます。以下時系列。

1993 年　連続立体化事業に際し、JR 東日本が駅舎解体を発表
1999 年　JR 中央線三鷹駅−国立駅間の連続立体化着工
ここから住民の声を受けて国立市が保存復原の動きを具体化
2000 年　国立市が国立駅舎の価値と保存活用の方向に関する資料「国立駅周辺プラン報告書」を発表。
2006 年　旧駅舎 解体
同時に、国立市が旧駅舎を有形文化財に指定(保存復原のため)
2013 年　高架化事業終了
復原場所が問題となるが、駅前土地を JR が国立市に寄附する形で決着
2020 年　駅舎が駅前に復原

国立駅の旧駅舎は、上記の通り JR により開発されたものでないことが、こだわりのなさ、即解体に繋がっているようにも感じます。これが、復原されたとはいえ、とってつけたような形?にも見えるところかもしれません。(右写真)

ときわ台(元・武蔵常盤)駅の場合、東武鉄道を築いた根津嘉一郎社長の肝いりの開発であることから、立体化即解体ということにならないことが期待されます(例：東急東横線の田園調布駅)しかし、鉄道経営の効率性のみを考えれば JR 国立駅のように解体ということになりかねません。





ときわ台駅周辺まちづくり協議会マスタープラン(2026.3)では、「…今後もまちのシンボルとして保存できる可能性を踏まえて、その在り方について検討するよう関係機関に促します」としています。 国立駅舎の轍を踏まないためにも早い段階から住民の声をあげることが重要であると考えます。